那覇市様式

作成に当たっては，以下の資料を参考にする。
(1)「学習指導要領 解説」（各教科） H29. 7月
(2)「言語活動の充実に関する指導事例集」（各教科）H23.10月
(3)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（各教科） R2.3月
(4)「学習評価の在り方ハンドブック」 R元. 6月
(5)「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」R2.3月
(6)『「問い」が生まれる授業サポートガイド』
(7)『「問い」が生まれる授業サポートガイド 補完版 授業改善ツール』

第３学年　算数科学習指導案

令和　　年　月　日（　）　校時　□：□～□：□
（　　）学校　　年　　組　　名
指導者　　㊞

１　学校で育てたい資質・能力

仲間と共に考えを広げ深める力，学んだこ

【学校デザインシート】から，関連する内容を抜粋して記載する。

２　単元の概要

単元名	あまりのあるわり算
内容のまとまり	第３学年「A 数と計算」（４）「除法」
単元の目標	(1)割り切れない場合の除法 きる。 (2)割り切れない場合の除法 することができる。 (3)割り切れない場合の除法 生活や学習に活用しようとしている。
働かせる見方・考え方	わる数とあまりの大きさ
単元で取り上げる言語活動	

教科によっては，題材名となる場合があります。例：音楽，美術，技術等

単元，小単元，題材など，教科によって指導計画を作成する際の「内容のまとまり」の捉え方が異なります。そのまとまりを踏まえて指導計画上の目標を設定することが大切です。
目標は，各教科の特性をいかし，３観点を踏まえて総括的に記述したり，観点ごとに記述したりします。

働かせたい見方・考え方を明確にする。（㊀～に着目し，～する。）

国語科のみ記載　※他教科は，表を削除する。

３　単元について

（１）児童生徒観

・単元で身に付けさせたい力に対する実態把握について記述します。
・どこでどのようなつまずき（課題）があるかを分析し，指導観に記載する手立てと連動するように記述します。
・本単元（題材）の学習に直接かかわる児童生徒の実態をできるだけ３観点から考察します。
・音楽，図工・美術については，単元・教材によって，一つの領域に重点化するのか，あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決めます。
・「主体的に学習に取り組む態度」は，教科の好き嫌いではありません。自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。また，事前調査の結果をそのまま載せるだけではなく，日頃の観察を含めて，児童生徒の状況を本単元（題材）の目標に照らして実態を考察します。さらに，レディネステストの結果などから，今までの学習で身についている資質・能力を記述します。また，不十分な点についても記述します。

（２）教材観　　※体育科の場合は，　①運動の特性　②子どもから見た動きの楽しさ

・単元目標と関連させ，本単元の学習課題を明確にして記述します。
・学習指導要領との関連を示します。
・単元（題材）の学習内容と，そのねらいを記述します。
・適切な単元の構成内容であることを記述します。
・本時の教材分析や素材の魅力（体育については運動の特性）についても記述します。

（３）指導観

・ねらい達成に向けて，どこで，どのような手立てをするのか，指導のポイントを記述します。

・（１）「児童生徒観」（２）「教材観」を踏まえ，この単元全体・本時の学習内容をどう指導していくかを具体的に記述します。
（単元の展開方針，単元の教材構造，順序，学習形態，個に応じた学習指導の視点など）

・目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するのかを記述します。

様式

下記の例は小学校算数です。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第３編』（以下，参考資料⑶第３編）を参照　※各教科とも 参考資料⑶第３編 を参照して下さい。

4　単元の評価規準

知識・技能【知技】	思考・判断・表現【思判表】	主体的に学習に取り組む態度【主体的態度】
① 包含除や等分除など，除法の意味について理解し，それが用いられる場合について理解している。 ② 除数と商が共に一位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合にあまりを出すことや，あまりは除数より小さいことを理解している。	① 除法が用いられる場合の数量の関係を考え，具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて，日常生活の場面に応じて考えている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え，具合物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法の場面を身の回りから見付け，除法を用いようとしている。（「わり算探し」など）

各教科とも，参考資料⑶第３編 を参照して下さい。
下記の例は小学校算数です。**※本時については，太線で囲んで下さい。**

5　単元の指導と評価の計画（全 10 時間）

前単元	本単元の既習事項となる単元や考え方を明記します。

【・】指導に生かす評価，【○】記録に残す評価

時間	学習活動 と 児童生徒の反応（◆）	学習を支える教師の働きかけ（□）	【評価項目】（評価方法）<他教科>
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。 ◆どのような数の時に，わり切れないのか調べてみたい。	□これまでのわりきれる場合と比較して，問題提示を工夫することで，「除法を用いてよいこと」に気づかせる。 (用)わり切れる，わり切れない	【・思判表】① (行動観察・ノート分析)
2	余りがある場合の除法の式の表し方や，余りなど用語の意味を知る。 ◆あまりの表し方を知りたい。	□全体で式まで完成させた後，一人学びで図や式にまとめ，結びつけさせることで商やあまりの意味を理解させる。 (用)あまり	【・知技】① (ノート分析) <体育>
3	余りと除数の関係を理解する。 ◆順序良く並べることで，あまりの大きさについて説明したい。	□「余り」は除数（わる数）よりも小さくなるという性質について，具体物を分ける操作で理解させる。	【・知技】③ (ノート分析)
4	・答[illegible]用で	□	【○思判表】① (行動観察・ノート分析) <理科>
5		□	[illegible]技】② (ノート分析)
6	[illegible] ◆	□	【○主体的態度】① (ノート分析)
7	商を＋１する場合やしない[illegible] ◆		[illegible]表】② [illegible]観察・ノート分析)
8	学習内容の定着を確認し，理解を確実にする。（章末問題） ◆	□	【・知技】①②③ (ノート分析)
[illegible]			【○知技】①②③ (ペーパーテスト) 【○思判表】② (ノート分析)
[illegible]			【○主体的態度】② (ノート分析)

・「学習活動」は児童生徒の気づきを明確にします。
・「児童生徒の反応」は，３つの子供の学びの姿から，問題提示では，児童生徒からどのような「○○たい。」を引き出し，授業の終末では，次時につながる「○○たい」という新たな「問い」をどう引き出すか，その「問い」をどのようにつなげるかデザインします。

・「教師の働きかけ」は，児童生徒の気づきや「アウトプット」を引き出す発問，指示，提示，場の設定を「何のために」行うのか意図を明確にします。
・新出用語等を明確にします。

・教科横断的な視点から他教科との関わりがある時間については記載をする。
・学校によっては，キャリア教育の視点やＳＤＧｓの視点で記載することも考えられる。

【・】指導に生かす評価，【○】記録に残す評価
・「指導に生かす評価」は，主に努力を要する児童生徒を確認し，その後の指導に生かすためのものとします。
・「記録に残す評価」は，学級全員の児童生徒の評価を，総括の資料にするためのものとします。
参考資料⑶第３編
・指導と評価の一体化を図るために「指導に生かす評価」「記録に残す評価」をどのタイミング，どの方法で行うかを明記します。

後単元	本単元が既習事項となる次単元などを明記します。

那覇市様式

「５ 単元の指導と評価の計画」を踏まえて，具体的に記述します。
児童生徒がどのようなことが言えたり，書けたりすれば目標を達成したことになるのかなどを具体的に示します。
基本的には，観点別評価 B の「概ね満足できる」内容に沿う形で記述します。

６　本時の学習指導につい

（１）目標

等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかブロックや図を用いて表現することができる。

（２）授業仮説

「〇〇〇において，　〇〇〇すれば，　〇〇〇になるであろう。」

場・内容の限定　投入条件　方法・手だて　身に付けさせたい力（資質・能力）　ねらい・めざす子ども

本時の授業のどこで，どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか，学習指導要領を踏まえて簡潔にまとめます。
仮説を２つたてることも考えられます。

（３）展開（第４時）

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し，検討する。

	学習活動	教師の働きかけ（□） 予想される児童生徒の反応（◆）	評価規準 【評価項目】（評価方法）
導入（ ）分	１　問題把握 具体的な学習活動について，児童生徒の立場から記述します。	・本時の目標を確認し，児童生徒に学習の見通しをもたせるような，「めあて」を児童生徒向けの言葉で提示します。 ・児童生徒の学習意欲を促すような資料，問題提示の工夫します。	
展開（ ）分	２　めあて めあて まとめに正対し、子供の視点に立った「めあて」にします。 ３ （１） 「授業仮説」につながる学習活動は分かりやすく表記します。（例：太字ゴシック体等） （２） （３）	・予想される児童生徒の反応（◆）と，それに対応した教師の働きかけ（□）を順序立てて記述します。 ・自分の考えを書く活動を取り入れます。【自立的な活動（自立解決）】 ・ペアやグループ，全体でかかわり合い，学び合う活動を取り入れます。【協働的な活動（比較検討）】 ・努力を要する児童生徒のつまずき（◆）とそれに対応した教師の働きかけ（□）を記述します。 【展開での工夫例】 〇授業のめあて・身につけたい力を明確にする 〇授業の「めあて」に正対した「まとめ」，「学習の振り返り」を確実に行う 〇書く活動，かかわり合う活動をとり入れる 〇指導形態の工夫　ペア学習，グループ学習 〇ICT を活用した授業の工夫 〇教科を横断した視点での授業の工夫 評価規準については，「概ね満足できる」姿（観点別評価B）を，評価する場面の欄に記載します。 （ ）には，評価方法を記載します。 ◆努力を要する児童生徒への働きかけ □ブロックを操作して，「はじめの数」や「一人分」の数との関係を捉えさせる。 □互いの考えを交流させる場面では，納得した解決方法をノートに記述させる。 「５ 単元の指導と評価の計画」の評価項目と本時の評価項目との整合性を図ります。	「十分満足できる」姿（観点別評価Ａ）を記入する必要はないが，しっかりと検討し，設定しておくことが必要です。 【思判表】① 〈概ね満足〉 等分除の場面でも割り切れない場合の除法が適用できることを，ブロックや図を用いて表現している。 （行動観察，ノート分析）

	学習活動	教師の働きかけ（□） 予想される児童生徒の反応（◆）	評価規準 【評価項目】（評価方法）
	4	・「めあて」と正対した「まとめ」について記述する。今日の授業で「何を学んだか」を明確にする。児童生徒の言葉を生かしてまとめます。	
終末（ ）分	5　まとめ まとめ 6　振り返り	・本時の学習で分かったことやできるようになったこと，次の課題などについて，児童生徒に振り返らせます。 ・本時の目標や単元の展開等から，児童生徒から「引き出したい振り返り」を明確にします。 ・終末には，教科の特性に合わせて，「まとめ」や「振り返り」，「適用問題（評価問題）」を入れるなど，本時のねらいが達成できるよう計画し，記入します。	

（4）板書計画

教科の特性に合わせて「場の設定」や「準備物」等についても記載します。